京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年　紀元二千五百七十一年
本紙定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲二號活字…特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久鶴一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話[illegible]
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜錄

新領土の舊山河（二）

呉鶴

▲鴨綠江（一ノ二）

橋梁の成功に最も力大なるは現時工務課長たる技師岡村初之助とす彼學理に於て或は通せざらんも、其實地に當るや些の失なく誤なく誠に斯道の天才たり、加ふるに人を牽ゆるの術亦頗る策に富み恩威倂び行はれ、彼の部下其命に服く事手足の如し、獨朝鮮鐵道耳と云はず我日本鐵道界の上より見るも彼の如き稀に見る逸物と云ふべし、○彼体軀肥滿、宛として布袋の如し、彼が粗服して日夜其職に勞々たる、見る者感ぜざるなし、技術者にして外交官の如き、商人の如きもの多き中に、彼獨り技術官としての異骨頭を有す、彼は人物に於ても亦推稱の價有り、橋梁開通の曉、是に依つて利便を受くるもの、永く此好漢の名を記すべし。

○曉天、出で〻江岸を散歩す、寒氣凜烈、堪へ難きもの有り、然れど水未だ氷らず、汪々として音無く、靜かに流れ流るゝを見る、吾人をして「逝者如斯夫、不舍晝夜」と叫ばざるを得ざらしむ、大江の悠々たる海洋の大に比し、又自ら他樣の趣あり況んや本江の如き國地誌の上を流るゝ耳ならず、數千の星霜を通じ最も趣味多き歴史上を流るゝをや、半島河川多しと雖、最も歴史的色彩に富むは此江とす、本江は國際河にして亦歴史河と云ふ可し。

○「鴨綠江の秋の水、それより寒き日本刀」と曾て唱はれけむ本江は、より多く我日本の歴史の片に美しきの紅彩をなせり、更に其昔此江を渉りて鯨波か半島を鐵蹄の下に蹂躙せし英雄今何くにかある、江の右、江の左、一國建ち一國倒れ、變轉極りなき種族の興敗も知らず顏に日夜流るゝ大江の悠々たる眞に心憎き哉。

宗演師の說敎を聽く（上）

野崎小蟹

龍山倶樂部で十月十八日午後四時半から、釋宗演氏の說敎があつた、我輩も聽きに行つた、どんなものかと注目して居た、前座と云ふとれかしいけれど、其前座をして居る坊さんの前を傍若無人と云つたやうに、用たしに出て行つた、そして又戻つて來た人が即ち宗演である、彼は佛敎に於ける修養談をした、頭の力を養成せよ、頭の人や口の人や手の人足の人等は世人に多く見ゆる、然れども頭の出來た人を望む………と說き初めて、孔子の十五にして學び、三十にして立ち、四十にして迷はずなんて云ふ事まで敎訓された。靜なる所の靜は靜でない、忙殺されて居る市中の家にも靜があるその靜をよしとする、樂なる中の樂は樂でない樂は又苦しみの憂ひから逃れた所に樂みがある、悟を解かれたのである。順境に居る人は安心が出る故に頓挫するが、逆境に居る人は如何にかして人とならう成功しやうと、絶えず勉めるであらう、私僧侶等も逆境に一度は苦まねばならぬ、悟うも解かれた。我輩は只宗演と云ふ人はどんな、說敎振りをするかと靜聽して居たのであるが、結末が惜しいかな物足りなく壇上を去られた。

由來現今の僧侶は善男善女ばかりに敎を解いて居られるので、發達して居る洋服を着けた此日の鐵道局員をして遂に南無阿彌陀佛を稱へ出させなかつた、僅一息も二息も熱心を籠めて、後日の爲めになると云ふ、修養談を聽かせて貰ひたかつたのである、斯く記して來ると演者には濟まん。

議政府探勝記（二）

牛風庵

其より更らに亦左方へ迂回し往十里村落の東端に達す、蠶島停車場は此地に設けられあり、蠶島とは云ふものゝ同地は猶半里許りの遠距離に在るのだ此次の驛は淸凉里停車場で有る南大門驛より四十分間を要した、中々立派なハイカラの建物で京釜線などにも餘り見掛けない程だ、驛前は即ち東大門より來る電車の終點で有るから此連絡は極めて都合がよい、慾には電車を複線にせざれば滊車の發着と正確に連絡を取る事六ヶ敷からう。

次は倉洞驛である、彼の櫻花を以て前年より京城人士に喧傳せられたる牛耳洞の山溪は此處より一里許りの地點に在りと物知り顏して居た者も有る、眞否は知らぬ焉。之れより一路坦々として滊車は九時二十五分に議政府停車場に達した、此地は人家二三十に足らざる寒村だが割合に其名の高きは元山本街道と漣川街道との分岐點で有るのと、一は京城よりして一日程の處に位し旅客必泊の地たりしが爲めでも有らう、今や日本人經營の旅舍、飲食店も十數軒出來て居る中には議政館と銘打つた宿屋も有る、名を聞いたばかりでは氣の弱い田舍者は膽玉を轉倒し相な大袈裟な看板だが實の處は極めて粗末な宿屋に過なり

外事一束

△英帝　印度戴冠式參列の爲三ヶ月不在中皇太子幼冲故高官三名皇帝代理す

△伊外　相駐剳使臣に公言し曰く政府はトリポリ無條件讓與を要求すと之に對し土國議會主戰說熾に伊も亦トリポリに遠征軍と自働車を送り相對抗

△北京　恐慌破産銀行二十に及ぶ長沙南京等の陷落は革命員の浮說捏造也と

△福建　匪徒革命員に煽動され蜂起官廳を襲撃し敗走す四川官にも捷報あり

△奉天　軍隊出動す直隷留守の爲ならん吉林兵營は溷濁混同なり動搖し始む

△南京　鎭江大連奉天等既に大清銀行紙幣不渡を聞き取付激しく信用頗覆す

◎新刊紹介

◉東京經濟雜誌◉　『食料供給問題』は時宜に適し『伊土戰爭を評す』は所論明確肯綮に當り『租稅誅求の實例』は理義透底再讀に値す（一部十二錢東京々橋區彌左衞門町東京經濟雜誌社）

◉實業之世界◉　三宅博士の『獨立心と依頼心』は將來獨立自營を爲さんとする青年の必讀すべき文字なり其の他の記事何れにも賑やかにして送迎に遑なし（一部十一錢東京芝區愛宕下町實業の世界社）

◉書畫骨董雜誌◉　『美術家の目覺』『過去の美術界』『名家の書』は素人と雖も一讀を要す名家の所論さり〳〵に趣味あり（一部十錢東京本郷區湯島書畫骨董雜誌社）

◉實例◉　繪畫何れも眼を喜ばすに足る『浪花節衰ふ』『商藝家は敎育家であれ』『日蓮と現代』外數項何れも理屈と趣味に富む（一部十錢福岡縣筑紫郡警固村明倫社）

◉銃獵界◉　愈々獵季に入らんとす銃獵家の參考に資すべし（一部十二錢横濱本町二丁目金丸銃砲店）

梁川庄八　第十五回

小金井蘆洲演

歎聽して居た庄八、待ちに待たる家再興の望を失ひ暫し呆れて下俯向た、但馬は猶も言葉を繼ぎ　但『其方は全く不運薄命な者ぢや………、折角再興になるべき望も右樣な譯で破れたのぢや、斯る上は最早奧羽兩州にて名を擧げ家を興すと云事は迚も絶望ぢや、乃公が特に力を入れて敎授致した文武兩道、何處へ參ろう共人に劣らぬ汝の技倆、未練を殘さず此國を去り諸國を遍歷なし鑑識に叶つた人に仕へて立派に梁川の家を興しなさい………』誠に氣の毒な身の上であると、觸命を聞いて萎れて物語る、庄八の顔色忽ち土の如くに變じ雙髮頻へて逆立上り、拳を握り憤れる眼光燗々として　庄『ウム………如何なれば藻庭周防………左まで我家を怨むか、既に父の功名手柄を煙になし剩へ父を讒して切腹させ……、殊に星霜十年にも近き今日に家再興の御沙汰に水を注し、妨げなすとは是れ將に父の仇俸祿の敵、最早斯なる上は片時も彼れを生け留く譯には相成らん、君父の仇には倶に天を戴かずと古聖の訓へ、思知れよ』と廣瀬川の藻庭の邸の方を礑と睨んだ有樣の恐ろしさ、物に譬へん樣もなし、但馬は此体を見て大に驚き飛んだ事を云たと思ひ　但『コレ庄八………、汝短慮な事を致しては一身の方向を誤るぞよ、一朝の怒に耐へずして道を誤らば千載の汚名を殘し、梁川家の瑕瑾を爲すな、藻庭周防の振舞憎しと雖、是へ對して怨を報ゆるは第一主君に不忠の汚名を取るは必定、心を挾く人を仇に思ふな、何事も怒を靜めて當國を去て家を興し身を立てよ』と懇々言葉を盡し古事を引例して說諭致しました庄八も師が理を盡して訓戒に逆らう事もならず、やふ〳〵顔を和らげ　庄『段々其御訓諭有難存じます、仰に從ひ嚮つて殺伐粗暴の振舞は毛頭仕りませぬ、御安心下さりまするやう、此上は一先づ岩沼に立歸り傭兵衛とも能く協議を遂げまして、所存を決しました上、何れ共御返答申上まする』但『アヽ左樣しなさい決して〳〵短慮は愼まねばならんぞ』と是から話は一轉して世事を談じ、但馬先生の妻君娘御も夫へ出て桃の節句の事ですから、豆煎に白酒を出して御馳走をする、すつかり忘れたやふに他事を語つて　庄『今日は是にて御歸へを致します、種々御馳走樣に相成ました』と歸を告げ妻子に至るまで一々挨拶をして飛梅天神の社を立出ました、恩師が非常に心配をしたやふだから、表には全然怒は晴れたやふに装ふたが、内心余憤尚收らず、歩む足音ズカ〳〵と仙臺の大手前まで掛て參りました、伊達家は大藩ですから式日と云ふ家中不殘登城をするので、大手前の混雜は一方ではありません、其混雜を避ける爲に大手前の玉川に登城橋と下城橋と云ふ二つの橋がある、今諸士が退出の時刻と見へて、綺羅を飾つた式日の事ですから伊達姿で供揃を召連れて意氣揚々として退出してくる、其中に俄に東西南北四西の辻で『ハイヨウハイヨウ〳〵〳〵』と云制止の聲、行列美々敷下城をして來るのは、片倉備中守景家、庄八此有樣を見て　庄『アヽ、立派だな片倉殿の御退りだな、藩士が道を開いて會釋をする、乃公の父上も無事であらせば是程でなくとも、今日の樣な式日には供を揃へて』と懷舊の念胸の迫り見て居ると、又も一段高く聞ゆる『ハイヨウ〳〵〳〵』庄『此度は誰君であろう』と見て居ると、當時惡運に乘じ威權並ぶ者がない藻庭周防正盛入道月海の行列、今や下城橋を渡り過ぎた、此容子を見るより、滿身の怒氣ムラ〳〵と抑へ兼た猪と見へ前後の事も打忘れ　庄『汝は父の仇家の敵憎き奴メ』と思ふと我知れず勇氣五體に充滿なし、冠れる笠を脱ぎ捨て着たる羽織をかなぐり捨て、腰なる大刀の柄に手が懸つた儘、飛鳥の如く周防の乘物目蒐けてバラ〳〵〳〵、跳込んだ、相備の侍が　士『狼藉者ッ』と支へ立を仕樣と云のを　庄『邪魔ひろぐな』と大喝一聲拔打ざまに眞甲から斬下げた、ハッ一同驚く内に瞬に近付たと思ふ間に　庄『思知れよ』の一言グサッと突通せば、キャッと叫んだ一聲は橋のキたる藻庭正盛、引拔いた血刀を振冠り大音聲　庄『ヤア是れは當國宮城郡梁川の舊地行主梁川庄兵衞遺子の庄太郎、當時人と成て庄八正體今日只今倶不戴天の父の仇、藻庭周防を討つ妨げなさば右に首塚左に胴塚、死人の山を築いてくれん』と呼ばつたり。



京城新報

盛んに奉祝せよ
天長節の佳節を

天長の佳節、十一月三日は今や旬日の後に迫れり、然して今年の天長節は半島併合一周年を經過せることとて、光輝ある旭章旗は、長白山の峙つ邊、鴨綠江の湍よ畔、津々浦々の端に至るまで、新附民の軒頭に飜り、一簇十三道、旭章旗の紅と相映して相耀くを見るこそ可し。想へば實に大快心事ならずや。

皇宗、神武天皇、日向の一隅より起つて先づ中國に押し渡らせ、遂に豐葦原の大陸を平定して、皇都を大和に奠設し以て萬世の皇基を肇め玉ひし御遺蹟を追想し奉り、之れを明治天皇陛下が東海の孤島より進んで、東大陸の半島を領有あらせ、皇威を四海の表に宣揚し玉ふ御事蹟に比べ奉らば、古今同一殺異に欽仰すべきを拜せずや。

時に申すも畏こき事なれど、陛下が常に半島における黎庶の安危を軫念あらせ玉ふは。併合當初多額の御賜金あり、流離困憊の孤寡を憐れみ玉ひし事、水害罹災民の爲めに府庫を開かせられし事等、天地に侔しき皇德を示され給ひしによつて拜察し得るなり。さなきだに、政務御多端にして、御左右をさへ顧みさせらるゝ御暇もなきに尙絶れず、叡慮を新附の民の上に注がせ給ふ。あゝ、新附の民たるもの如何にして御聖恩に酬ひ奉らむとする耶

國民が陛下の御誕辰に際し、欽天喜地、聖壽無彊を祝し奉る所以のものは聊か奉公の赤誠を致し、臣民の分を盡さんとするに外ならざるが、新附の民及び在鮮內地人は、此意義を一層擴充して、更に大に奉祝する所なかるべからざるなり。

顧れば、本年の併合紀念日は日鮮人擧つて祝意を表し、随つて市中の賑ひも亦一方ならざりしが、將さに來らんとする天長の佳節は其以上の熱誠を捧げ以て奉祝の誠を表せざる可からず。而かも今より之れが準備を成し置くの要あり。惟みれば我帝國が旭日冲天の勢を以て倍々光輝を加へ、國民何國に赴くも肩身廣き感あるものは　今上極を御して以來、開國進取の國是を定め玉ひ憲政の治を敷き、議政の府を創し文に武に大御心を國の爲めに注がせ玉ふに基く。半島併合の如き又　陛下の御稜威に由るにあらずんば、奚んぞ至易の間に之を行ふことを得んや。此くも、恭ふくも、畏こき我　大君の御誕辰に際して、吾人が併合紀念日以上に盛んなる計畫の下に、奉祝の誠を表せんことを今より勸告しをかんとするは、我京城民をして本末顚倒の譏を受くるなきを拾ふの外、新附國民の感覺に、我皇の御盛德と御聖恩を深く印象せしめんが爲なり。

聞く、當日は日鮮民合同の大祝賀會催ふさるべしと。國民として之に參列すべきは素よりの事、種々の方法によつて祝賀に興を添ふるも亦國民の爲さゞる可からざる所なり、而かも之れが盛んなるだけ、新附民の印象を强ふするや必せり。敢て一般に奬む。

北京特電

▲**兩軍相對峙す**　叛軍は十八日午後武昌本營より應援を得て再び江岸停車場を攻擊し官軍を北方に壓迫せり兩軍は野營を張りて對陣中各國租界地に流彈達し獨乙水兵一名負傷せしも邦人は對馬艦に避難準備中

▲**陰昌軍信陽着**　陸軍大臣にて討伐軍指揮官たる陰昌は十九日午後五時信陽に到着したり信陽以南は革命軍の爲め鐵道破壞されたるを以て徒步南下すべしと

▲**革命軍の攻勢**　十八日より革命軍は攻勢を取り江岸停車場附近の官軍と交戰中にて他の一隊はコウカンケンに向ひ進行中なり

▲**岑は上海滯在**　岑春煊は上海に赴き尙同地に滯在せる事は事實なり

▲**南下官軍の本營**　南下したる討伐官軍の本營は武勝關に設けらる可く兵站部は湖南陳州に設けらるべし

▲**水雷艇隊碇泊**　第十一水雷艇隊漢口日本居留地の下に碇泊したり

▲**官軍糧食缺乏**　官軍は糧食缺乏の爲め度支部は軍資金不足の爲め其急に應ずる能はず困憊の色朝野に關つ

▲**河南其他各鎭危險**　鐵道警備隊は惰氣慢々河南其他の革命黨勝利を得ず叛亂の惧れあり

▲**政府の收攬策**　皇太后陛下は南淸水害並に湖北擾亂被害民救恤金二十萬兩を下賜されたり

▲**討伐軍戰報**　陰昌よりの公電に曰く步兵二十二聯隊は十八日江岸に於て叛軍の爲め二回の襲擊を受けしも擊退し捕虜數名馬匹若干捕獲せり混成旅團は援護の命を受け擾口に着す敵は主力を武昌に置く逃走者多きが如し我は司令部を信陽に置き四師團の到着を待合せ前進し總攻擊開始の豫定也と

上海特電

▲**軍艦敵に降服す**　支那軍艦蘇堅號は白旗を揭げ武昌革命軍に降服し叛軍の本據地に入れり

▲**漢口の大混亂**　十九日來革命軍負傷者漢口支那人町に入込み大混亂を極む

▲**革命軍の攻擊**　漢口發電報によれば革命軍は漢水河岸コンツウ邑に上陸攻擊せるも河南の軍隊之れに應戰せず

東京電報

▲**四驅逐艦派遣**　卷雲、敷波外二隻合せて四驅逐艦十九日夜南淸へ向け出航せり

▲**外務省活動**　我外務省は參事官木村榮一、書記官奧田武松兩氏を淸國に急派せり

▲**袁世凱出軍公報**　袁世凱は二十一日部下を率ひて湖北勦亂に出發すべしとの公報ありたり

▲**叛軍情報達す**　漢口發電によれば十九日叛軍は漢水河岸に上陸して側面攻擊を開始官軍は楊村に對陣して砲擊せず十九日以來叛軍の負傷者漢口の支那街に入り混亂を極めり

▲**獨銀行と官軍**　漢口獨逸銀行は官軍に百萬兩を貸與したり

▲**驅逐艦上海に入港**　驅逐艦四隻二十一日上浦に入港內二隻は長江を遡れり

▲**陸海軍の退却**　本日海軍省着電蕪湖の秋津洲艦よりの報に依れば漢口の官軍は陸海軍共に下流方面に退却せるもの如しと

▲**目黑火藥庫爆發**　今朝十時五十分目黑の火藥庫爆發し死者五名負傷者多數あり原因は乾燥器に故障を生じたるが爲めなり

▲**米露協約說否認**　米國國務卿ノックス氏は淸國の平和を維持せんが爲め露國と米國とが協約を結べりとの說を非認したり

▲**南淸艦隊の增加**　第二驅逐隊は第三艦隊へ編入を命ぜられたるを以て艦隊は十三隻となれり

▲**袁總指揮官となる**　淸國政府は革命軍討伐のため海陸軍の全部を袁世凱の攝理の下に置く旨の上諭を發したり

▲**葡國王黨勝利**　葡萄牙王黨はチヤーリモンレークの城を占領せり

雜報

●**滿鮮聯絡の協定**　鴨綠江の架橋竣工し安奉線の改修も完成し近々滿鮮の聯絡を見るに就而は稅關の設置滊車の通行に關し日淸兩國間に協定を要するものあり大屋鐵道局長官及矢野鎭南浦稅關長の二氏は廿二日急行奉天に赴く筈なり

●**寺內總督出張**　既報の如く寺內總督は明石總長、石塚長官宇佐美長官、大屋長官、藤波通譯官等を隨へ廿一日午前六時南大門發列車にて忠淸南道連山驛に於ける湖南線一部の開通式に臨場したり而して寺內總督は式を終りたる後明石總長等と共に論山、江景等を經て群山に出て同地視察の上滊船に搭乘し廿二日仁川上陸即日歸京すべしと云ふ

●**總督府と伊公祭**　來る二十六日は伊藤公薨去後滿二週年に相當し官民を問はず二週年祭を執行すべきが伊藤家にては公の週期は佛式よりすれば本年は三週年に相當すべきも神式よりすれば二週年なるを以て本年は昨年の如く普通に行ひ來年は盛大に執行する由にて從つて總督府に於ても本年は質素に行ひ來年の三週年を期して盛んに執行すべしといふ

●**臨時船舶職員試驗**　朝鮮沿岸の航海に從事する海員にして船舶職員試驗に應せむとする志望者年々に增加するを以て總督府は之に對する便宜を得せしむるため遞信省に交涉し愈十月二十六日より釜山に於て乙種船長以下一等機關士以下の職員試驗を執行する事となれり其の詳細を知らむと欲するものは釜山稅關に就て承合すべしと云ふ

●**地金買入價格引上げ**　朝鮮銀行にては朝鮮產出の地金を一手に買入れつゝあるが其價格は從來一匁に付四圓九十五錢なりしを去る十九日より四圓九十八錢に引上げたりと云ふ因みに朝鮮より輸移出せし金貨及地金は本年一月より九月迄の累計八百六十餘萬圓にして之を昨年同期に比すれば約二百餘萬圓の增加なりと云ふ

●**平壤の新無煙炭坑**　平壤鑛業所にては昨年平壤附近に位する江東郡五里の間に於て無煙炭の豐饒なるを認めたるを以て來年度の豫算に右採炭費を計上し約三ヶ年の豫定を以て調査に着手する由なるが採炭の時期にいたらば多量の供給を爲すを得べしと

●**鐵道局と民間**　朝鮮總督府鐵道局が民間有志記者を無視して湖南線開通式に案內狀を發せざりしのみならず過日南大門議政府間新線路開通式の際の如き同線路の起點地なる我京城の民團役所及び商業會議所に對し何等案內を爲さゞりし由なるが右の事實に因れば鐵道局官憲は極端に民間代表者を無視し居るものと云ふべし

●**商議會頭に行惱**　京城日本人商業會議所會頭問題は爾來行惱みの狀態にて今日にいたるも尙決定せざるが由來同問題は今春山口太兵衞氏辭退すると同時に會議の役員連は市原鮮銀總裁を推したるも同氏は官憲との關係上斷然拒絕したるを以て今度は東拓の林理事に相談を持ち掛けたるところ之れ又市原氏と同じ理由の下に承諾するにいたらず依つて物色の末此の人ならばと狙ひを付け市原氏及び古城氏を通じて既報の如く淺野三井支店長に當りたるところ本店に於て不承知を唱へ結局何れもオヂヤンとなり今日にいたりたる次第なるが議員連は全國商業會議所聯合會等も追々近づき且つは種々の問題も起り居る昨今一日も早く決定せんと焦慮し仲介者を通じて和田常一氏に交涉を試み居る由なるが何れにしても今日の場合一日も早く決定を見るが急務なるべし

謹告

新年御歌會御題は「**松上鶴**」と仰出されたるが本紙は例年の如く右の御題により一般讀者諸君の**吟詠**を募集し新年の**初刷紙上に掲載**すべきに就き今より推敲を凝らし置かれたく豫め謹告す

●**總督官邸の夜會**　寺內總督は別項の如く來る廿三日入京英國大使夫妻及び令孃を招待し二十五日午後六時半より官邸に於て晩餐會を開き更に夜會を催し正賓大使夫妻の外英國總領事、重なる同國居留民百三十餘名を招く豫定なりと

●**案內狀の再發**　大屋氏と記者團

京城有志記者團が大屋鐵道局長官の無禮なる態度に憤慨の餘り湖南線開通式に臨場せざることに決定し同時に同長官に向かつて案內狀を返附したるは既報の如くなるが右に付き大屋氏の狼狽一方ならず如何にかして有志記者の臨場を得んと二十日夜半亦々左の如き案內狀を再發したり

拜啓益御淸穆奉賀候陳者明二十一日午前十時四十分連山停車場構內に於て當局線大田連山間開通式擧行可致就ては左記時刻に依り南大門連山間往復運轉の臨時列車に座席を設け置候間右に御乘車線路御一覽旁御貴臨被下度此段**改めて**御案內申上候　敬具

明治四十四年十月二十日

朝鮮總督府鐵道局長官　大屋權平

記者宛

右に因れば大屋長官は記者團が最初同氏に發したる書面に對しては何等の挨拶を爲さず第一案內狀の返附を受けたる後ち何等の手續きを爲さずして第二の案內狀を發したるものなれば記者團側に在つては右第二の案內狀に對し冷然として顧みざりし由なり

●**英大使を出迎**　英國大使夫妻及び令孃一行入京に付菱田通譯官は二十一日出迎のため新義州に向け出發せり

●**鴨江流域商況調査終了**　鴨綠江流域に於ける商工狀況の調査は曩に鈴木囑托をして調査に從事せしめしが既に同流域に於ける調査を終了し目下平安南道方面の調査に從事中にして多分來月中旬歸任すべしと云ふ

●**朴泳孝頌德表奉呈**　侯爵朴泳孝氏は來る十一月三日の佳節に際し天皇陛下に頌德表を奉呈する由なり

●**京城水產會社總會**　京城水產株式會社にては來る二十九日京城商業會議所樓上に於て臨時總會を開く由也

●**天長節奉祝會場**　來る十一月三日の天長節には京城府廳京城民團等主催にて日鮮人合同盛大なる祝賀會を擧行する事は既報したるが其會場は長谷川町の南別宮を用ふる筈にて總督府營繕課へ交涉したるも都合あり使用する能はず會場未定也と而して餘興には濟人の神樂鮮人の輕業其他種々趣味ある催ふしありと云ふ

●**仁川と天長節**　仁川民團に於て十九日久水府尹、岩崎民長、奥田商議會頭、淺井民會議長、徐相彬面議所長等會合し天長節奉祝準備會を開き協議の結果設備委員に八田、村谷、坪井田中、竹田澤、加藤の六氏を擧げ庶務係には樋口助役、岡本書記、飯田書記長を指命し同會場は日本公園にして日鮮人合同大祝賀會を擧行する事とし會費は金五十錢にして各區衞生組長は全部會員募集に勸めしむべし又來る二十四日委員會開催協議する處あるべしと云ふ因に當日民團より仁川驛前及京町公園前穴門前の四箇所に綠門を設け尙二十一發の煙花打揚げをなすべしと云ふ

●**韓國政府收入印紙使用禁止**　既報の如く舊韓國政府時代に發行したる收入印紙は明四十五年三月卅一日限り其使用を禁止する事に決定したるが該期限後賣捌人又は私用者の所持する收入印紙は同年六月卅日迄の期限內に於て帝國收入印紙と交換し得べしと云ふ

●**市原鮮銀總裁全快**　豫て病氣のため引籠中なりし市原鮮銀總裁は愈々全快したるを以て二十一日より出勤したりといふ

●**石井今北兩氏歡迎會**　專賣局の石井今北兩氏の歡迎會は來る廿三日午後六時より花月に於て開催すべしと云ふ

●**今北參事の北行**　滯京中の今北專賣局參事は廿八日京城出發鎭南浦に向ふべしと云ふ

●**村井憲兵大尉の出張**　憲兵第一分隊長村井大尉は寺內總督を警衞して忠淸南道へ出張したり

●**鎭南浦赤十字總會臨場**　赤十字社愛國婦人會鎭南浦委員部にては二十二日午後一時より同府廳前庭に於て聯合總會を開催する由なるが朝鮮本部よりは總長藤田軍醫監(大橋主幹隨伴)臨場す

●**工業傳習所製品販賣**　工業傳習所にては二十二日午前十時より製作品を陳列し一般に觀覽せしめ終りて販賣する由なり

●**煙草產地調査**　目下滯京中なる大藏省專賣局の石井技師は度支部の岡田技師同道來月二日頃より平壤、江東、成川地方の煙草製產狀況を調査すべしと云ふ

●**咸南平北地方初雪**　本月九日咸南長津郡地方及平北楚山地方降雪ありたり

●**二宮神社の秋季祭**　孔德里內地人殷村に祠れる二宮神社の秋季祭典二十日執行せられ祭場は獨立門通二丁目三番戶にて擧式後諸名家の道德講話あり餘興として種々の遊戲茶番狂言等ありしと

●**農產品評會と煙草出品**　瑞興郡にては來る二十九日より成川郡にては十一月五日より各農產品陳列品評會を開會するを以て度支部稅務課より兩會に對し日本內地及朝鮮の試作等に係る煙草數品を出品し地方農民に煙草耕作を勸誘すべしといふ

●**咸南惠山鎭の虫害**　咸南惠山鎭方面に於ては粟作に害虫發生し被害尠なからざりしが所轄分遣所にては里民を督勵し驅除方勵行の結果漸く全滅するに至り目下の處出穗の成績良好なりと云ふ

●**鴨綠江の水路嚮導**　九月中に於ける鴨綠江水路嚮導船は出船十七隻一萬八千五百三十七噸入船十八隻二万八十六噸なりしと

●**注文津の鰯漁**　江原道注文津沖合に去八日鰯群來り同地在住の中村某は一網約九百圓の漁獲を爲し又同日襄陽郡孫南面沖合に於ても鮮人漁夫等は約二千圓の漁獲を爲したりと

●**蜜蜂飼養成績**　江原道三陟郡內に於ては蜜蜂を飼養し其收蜜價額は每年約二百圓に上ぼる由なるが本年は降雨の爲め多少不成績に終りたるも收蜜量は猶一石八斗五升(百四十八圓)に達したりと

●**取消**　二十一日附本紙揭載民團稅制調査案蜂尾助役談なる記事は記者の誤聞に付取消す

公人私人

△北井波治目(辯護士)　入京中の處二十日釜山へ出發

△岩瀨靜(大邱商業會議所會頭)　二十日巴城館へ投宿

△山岸慶之助(三菱合資會社重役)　同山本

△栗山俊一(宮內府囑托工學士)　同巴城館

△關野貞(同上理學博士)　同

▲京城手形交換高▼

日	枚數	金高
十月廿一日	四三〇	一八七、六九二、七四〇

▲治外法權▼

南淸の動亂は前號の續き、亦た何等目覺ましき報道に接せぬ、トコロで昨日も一寸書いたが、北京方の軍資借款もドーヤラ行惱みの樣だ、之を以て見ると四國銀行の連中も、前途に安心が無いものと見える▲サテ然りとは云へ淸國の動亂は同國の爲に氣の毒ではあれど仕方がない併しドツチ途出來たものなれば、同國の動亂の惡影響を我半島民が受けるようでは困まる▲湖南線開通式に際し、イサクサの起つたのは困まつたものだ元來大屋と云ふ人は學者肌技術家肌で人交際を知らぬソレが鐵道と云ふ客商賣をするのだから、今度の樣な失態も演じ出す譯だ▲鐵道局に對する記者團の措置を小供らしいと勿笑、由來世の中の事は役人共の勝手な考の通りに許りは行かぬ、ソレに加へて大屋は天下の公道たる湖南線の開通を、內證事にシヨーとしたのだから堪まらないね▲鐵道官憲が民間を無視することは記者團に對してのみならず、過日の議政府南大門間開通式の際に、我民團及び商議の代表等に案內をしなかつたのも確かに民間を無視したものだ▲寺內總督は偉らくはなからうが、サリとて無暗に民間を無視し事端を造る程に無智蒙の人ではない、而るに部下の役人共が、トモすると民間を無視して怨を買ひ、累を總督に及ぼさんとするのは苦々しい話だ。



チャンピオン傳(十)

仁川觀測所長　和田雄次君

當に仁川トカンの職名がある、トカンの名の副ふ如く君の頭腦は著しく死て居る其他から窓工合多く得易からさる珍らしき所を茶人の珍器を鑑するが如き所だ、此珍らしき所有者たる雄次君自らも又た古蹟、古器物の研究調査に深き趣味を有し多くの朝鮮內地の古蹟古器物を訪査に少閑を割き、して居る從て骨董品の鑑定には一見識を有して居る丈けに好い發見も少くない又有名なるもので時には貿易の差を出してるまで其愛翫を擴大するだけが有るだが併し此れ迄チャンピオンと云ふ一方には無い、唯り酒に於てハ、

洋酒の配合

先づコップをグラリ向けて盛いで用ゆる酒は多く洋酒である、他を醉中先づウヰスキーの芳烈なる所を喜んで少々醉が廻つて來ると君の得意の腕が出る「赤酒天外とでも云ひ相な」手附きで配合をやる、ハヽヽ、之がウヰスキ之が黄いハイ、自慢ぢやないが之れは僕の自慢なんだがね、自慢して居ると新ら云ふ風に五色の洋酒を注ぎ分けると云ふ、

一何一カップに五色に

注ぎ分けると、試に召して頂る手際なものである、此ならば禁酒にチヤンピオンとして紹介して差支へない事が此れよりも更に以上に振つた眞のものがある即ち君は實に醉はら

い振のチャンピオン

である、誰だつて酒を呑んで醉はないものは無いが君の猛烈なものだ、玉山崩る位の形容では追つ付かない將に玉山のドテ腹へ無煙火藥を詰め込んで火を點じた格で玉山は蕎茶〳〵だ、決して喫でない煙草には耶年の天長節の夜海月の如く醉つぱらつて爺々踊ると

金筋入りの帽子を振落し

して何方からか歸途支那町で冠つて居た金筋入の帽子を振落して仕舞ひ○○埋立地附近の溝に落ち込み、翌朝眼が覺めて見ると帽子がない、奥さんには失態を責められるし醉ひ申譯がないから仕方が、尋常正服を着けて飲まんことにする、例の朝大將が何時か飲んで居る、此の頭ぢやあ帽子だつて落ちて居る筈だ」とツルリ頭を撫で居る所へ某所の某が其帽子を届けて來た、君は又々「己れに出で己れに返る」だと好い氣なもので、更ら

鐵道線路を枕に眠つて

彼の事松坂町の踏切に眠つて居たのを踏切番人が發見してサア大變と驚いて近所の家へ擔ぎ込んで醉醒ましにと口を開けて水を飲ませようとする先き生顔も見ずに『モウ飲めねヘよ』(終)

●巴枝の仕入文

(本町井門支店)

△とは振られ客の仇口

新町遊廓井門支店に巴枝とて去る九月上旬より二枚で現れる妓あり此の妓は東京は富士見町にて藝妓して居たが事情ありて井門に抱へられしが東京の仇名ある姐さん腕は振袖の先きに及ばぬ位の腕をもち三味線も一寸やれると云ふ去る九日の夜本町の某破り自前藝妓のれ郷に呼んで花月の勝利二次會が新町の井門て乗込み醉士の歡妓とは顧は客分となつ花月で隨分ときこしめ屈せずれ相手を申し大に感心して其の腕ではのだとて歸られたがも或る所の宴會揚句ら右女助を連れて乘込チヨコン唸られてイザ御巴枝何處じけん旦那と墾す流し一通の玉袖に投込んだのを讀み上殿は本町一丁目の四れが三面子の手に入つた其の原文は左の如し

居のわびーさにたねかね君様にこがれて一筆候させてどや九日の夜れうつくしき御連れに女なきことながら御うらのまたしても今宵丸まきたる女のうわさにきけは右女助をやらと手を取りかわしていずこにて召されし酒の香にや消元の三千歲が興がりたもうさまのねたましき腹立しさあまりに心なき御しうちとしみ〳〵御うらみ申上候あはれつれなき人のなさてかくは戀しきぞ思ひ通ふ三層の高樓にきみ樓の夢てそわらはが思ひのみにてもなぞあはれと思召し一度はやさしき御言の葉たまはり候へよ思ふにまかせぬやすかる可きや戀にまよぬる女の心筆のはこびもげに戀なれやかしこ

十月十五日　とも枝より

●樓主娼妓の驅落

▽加かも娼妓は二人也

數日前より仁川は花町二丁目相良雜貨店の横町を出入する仇な姿の美人が一人に非ず二人までもあるにぞ記者が詮索して見ると此の家の表札には宮本大和と麗々しく記されあれば宮本こそは此の家の主人公なるべし而しながら合點の行かぬは二美人なり毎日爲す事もなくゾベラ〳〵として居る態は怪う見ても傾城の落武者とこそは觀察せらるゝので愈々探り當てねばならぬと八の痴氣を頭痛に病んだ結果は記者の眼鏡に違はず主人宮本こそは原籍下の關市大字竹崎町の生れにて當年三十四歲の男盛り郷里に在ては嬉野と云ふ女郎屋を營み娼妓の十餘人も抱ねて相當繁昌の店なるに宮本は大の精力主義者にて抱ねの娼妓は一人として自ら手を附けのはないと云ふ最も厄介排々樓主なるま、兎角夫婦の折合惡しくければ惡き程妓共に手を出すので家內は何日も風波の絶間とてはなかりき而して去九月八日宮本は抱への娼妓れと(十八)れよし(二〇)の兩名を連れ無斷出家し兩手に花と眺めながら物見遊山に日を費し去十四日仁川へ來り停車場前の菊屋旅館に一泊し花町の料理店菊水樓主とは郷里にて知合なればとて目下同人に便り前後策考究中なりとか云へど哀れ其の日の糊口にも窮し居るとか前記二美人とは即ちれとよれよしなるぞかし去るにても郷里に殘りし妻子は今頃ドンな夢を見つゝあるであらうか

謹告

來る十一月三日を以て創立第五年を迎ふる本社は將さに來らんとする天長節に際し大々的祝意を表する爲め本社主催の下に我京城藝妓總出の神田祭り式手古舞姿行列を擧行し市中の賑ひに寄與せんと致居候右行列の趣向及組織は中、京兩券番の苦心に成るものに有之候が其詳細は次號に發表可致候

十月　京城新報社

●放蕩だ、イヤ姦通だ

▽裁判所で押問答

滑稽なる離婚裁判事件あり離婚請求者は東部蓮井洞五十一統八戸朴姓女(三十)にて相手人たる夫は南部明哲坊光熙門內知禮洞七十六統一戸方與錫なるが朴姓女の申立は四十一年舊三月二日結婚し昨年舊八月迄同棲せしも元來結婚の際は方與錫の年齡は十九歲なりと聞き居たるに當時三十歲なりしかば不平なりしも仕方なく同棲せしが方與錫は放蕩淫逸にして且つ酒を好み資産を浪費し酩酊の上は原告を撲る蹴る等亂暴せしが昨年八月には居住する家屋迄賣拂ひ家計困難となりし爲め實家に歸りたるに被告は實家迄押掛け來り亂暴するから離婚して貰ひ度く裁判を仰ぐと云ふにありし被告方與錫は事實を否認し原告朴姓女は目下東大門分署詰巡査補咸鳳興なる者と私通し居るもので離婚を請求するものにて私に於ては此んな可愛い女房を離婚することは出來ません何卒れ上の威光で說諭して下さいと淚をホロリと流したりき

●正誤

昨紙本欄記載『李王殿下取調を受らる』とありしは正に李堈殿下とあるべき誤植なりしに付謹んで茲に正誤す(係)

●厚待たが不運

原籍石川縣能美郡中島村大字宮竹新津百四十九番地當時京城本町一丁目森田芳太郎(三二)は十八日夜龍山桃山遊廓明月樓へ登樓し娼妓榮龍を招ぎ遊興一泊して翌十九日朝に至り前夜の會計金五圓餘は仕拂ひたるも猶引續き酒肴の注文をなし更に藝妓金八を呼びて遊興したるも今回は懷中無一文にて樓主より遊興費金四圓餘を請求したるも固より無一文なれば仕拂出來ず不得止明月樓にても無錢遊興として龍山警察署へ告訴す

●自轉車窓へ飛込む

本町四丁目八番戸貞島方雇人高柳一作(十八)は自轉車に乘り二十日午後四時二十分頃南山町三丁目より本町四丁目に迂回し池田商店前にて車夫李在學と衝突して池田商店商品陳列棚硝子戸を破り損害金十圓を五圓丈けを李在學と半額宛賠償して事濟みたり

●寶六庵と紅葉狩

秋闌にして紅葉狩の時期となり人々は郊外に杖を曳く中にも奬忠壇の眺めは又格別なるが同所の寶六庵にては時節柄藝茸めしを調進し尙散策客のために便宜を與ふべしと

●生來いての泥棒

仁川府舊邑面官廳里崔德甫(三九)は本年二月二十五日仁川區裁判所に於て竊盜罪懲役四箇月に處せられ七月出獄後又もや同所の朱昌善外數戸にて竊盜を働き十月八日捕縛引致され二十日仁川區裁判所に於て懲役三年に處せられたり

●度量器を私製す

京畿道金浦郡斗谷里一統三戸木綿商金重鐵(三三)は去る三日午後二時通津郡陽陵面香羅里市場に於て自己製作の度量器を使用し木綿を販賣し居たるを金浦警察署にて捕へられ二十日京城地方裁判所仁川支部に於て罰金五圓に處せらる

●パコダ公園日曜演奏

二十二日は午後三時より陸軍々樂隊昌德宮音樂隊合同にて演奏す尙此一會にて本年の納會

●性質の惡い電車

二十日正午十二時頃新龍山行き電車は南大門通り三丁目李恭順(五三)を突き飛し重傷を負せたり

日曜集會

●京城基督教會(相生町)　二十二日午前十時より禮拜說教あり午後七時半より傳道說教ある筈なり
(朝)待　宗像鴨四郎氏
(夕)夜半の新　河野千敏氏

●メソヂスト教會(旭町二丁目)　二十二日午前九時より日曜學校、午前十時より禮拜說教、午後七時より傳道說教
(朝)神子の勝利　藤岡牧師
(夕)樹上のザアカイ　同上

●演藝だより

▲歌舞伎座　二十二、二十三兩日の藝題は『浪花俠客魁梅次』にて開演

▲浪花館　好人氣なる福圓一座二十二日の番組は左の如し
牛かけ(枝輔)てんにやく問答(圓松)延遊白(小圓)太神樂曲藝(福樂)田樂喰(圓三)五人廻し(芝鶴)娘奇術(喜代子)三段の平兵衛(福圓)大切喜劇(總出)

▲壽座　廿二日の狂言は二十一日通り鳥の枕、神田見なるが二十三、二十四兩日の藝題は『嫁ヶ淵』通し大道具大仕掛本水使用にて一同大車輪にて演ずべ

